

令和8年度 事務事業評価シート（1）

〔 令和7年度事務事業 〕

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業				事業番号	011-145	
担当部署名	健康福祉局	局	障害福祉部	部	障害福祉サービス課		課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5)障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現		
			有	取組の方向性	②障害者の暮らしの場の確保				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	ゴール(10)人や国の不平等をなくそう		ターゲット	10.2	
			有	取組	障害者児及びその家族に対する支援				
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—				
			無	現状値	—		目標値	—	

2 関連計画	第5次堺市障害者計画、第7期堺市障害福祉計画、第3期堺市障害児福祉計画		
3 事業開始年度	平成 22 年度	点検対象年度（個別計画）	令和 8 年度
4 実施根拠	障害者総合支援法第77条、堺市重度障害者入院時コミュニケーション支援費の支給に関する要綱		

事業の概要

5 事業の実施主体	本庁、各区		
6 事業の対象	特定の障害福祉サービス（居宅介護、重度訪問介護等）の支給決定を受けている、若しくは支援区分調査による調査項目6群「コミュニケーション」の調査結果が「日常生活に支障がない」以外である者、又は「説明の理解」の調査結果が「理解できる」以外である身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児（特定施設入所障害者、障害児入所給付費等の支給を受けている者、および未就学児は除く）	対象数	単位
		372	人
7 事業の目的	障害のため意思疎通に支援が必要な方が入院した場合に医療従事者との円滑な意思疎通の仲介を図り、安心して医療を受けられる環境を確保する。		
8 事業内容	意思疎通に支援が必要な障害者（児）が医療機関（精神科を除く。）に入院した場合に、普段利用している指定障害福祉サービス事業者（訪問系）や登録している移動支援事業者から、ヘルパー又はガイドヘルパーをコミュニケーション支援員として派遣し、医療従事者との意思疎通の仲介を行う。		
	※国・府の基準より上回って実施した内容		
9 主な支出先	—		
10 公民連携・協働事業	—		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
	サービス提供回数	回	目標値	—	—	—	—
			実績値	26	134		
			達成率	—	—		
当該指標を選定した理由	事業の全体量を把握するのに最適な指標のため。						
目標値の設定根拠・算出方法	本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。						

12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	利用者数	人	目標値	—	—	—	
			実績値	6	14		
			達成率	—	—		
当該指標を選定した理由	事業の全体量を把握するのに最適な指標のため。						
目標値の設定根拠・算出方法	本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。						

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業	事業番号	011-145
-------	-----------------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

13	財源内訳	項 目	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度		令和8年度 当初予算
					当初予算	決算	
		事業費（a）	25	125	669	508	578
		国支出金	0	0	0	0	0
		府支出金	0	0	0	0	0
		市債	0	0	0	0	0
		その他（ ）	0	0	0	0	0
		受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
		一般財源	25	125	669	508	578
14		人件費（b）	162	810	840	840	870
15		年間経費（c）=(a)+(b)	187	935	1,509	1,348	1,448

事業費の内訳

（単位：千円）

16	事業費内訳	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
			R7	決算				R7	決算		
		重度障害者入院時コミュニケーション事業	R7	決算	508	508		R7	決算		
			R8	予算	578	578		R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		
			R7	決算				R7	決算		
			R8	予算				R8	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

17		区 分	単位	令和6年度	令和7年度
	①	サービス提供回数	回	26	134
	②	上記①にかかる年間経費	千円	935	1,348
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	35,962	10,060
		算出についての説明等			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	本事業は、入院時に障害者（児）と医療従事者の意思疎通を支援するものであり、障害者（児）が入院時に適切な医療を受けるために必要な支援である。事業費については、自立支援給付の居宅介護の報酬と同水準であり、当該事業に係る費用は妥当であると考えます。
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	本事業は、障害者（児）と医療従事者との意思疎通を支援するものであり、入院時において適切な医療を受けることを通じて、障害者（児）及びその家族への支援に寄与している。
----	---

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	当事業は入院中のコミュニケーションに特化したサービスであり、サービス提供回数は年度ごとに増減が見られるが、障害のある方が医療従事者と円滑にコミュニケーションがとれるよう支援し、安心して入院中の治療を受け、療養生活を送る機会を確保することに寄与しているものと考えられる。今後も、障害者が安心して医療を受けられる環境を確保する観点から、本事業は必要性・有効性ともに有するものと認められる。
	有効性	■ 高い □ 低い	